



会議の前日には懇親の場が設けられ、ナイヤガラの滝や地元ワイナリーの見学で各国代表が懇親を深めた。

海外の活動から

IGTA(国際財務協会連盟)の年次総会が、今年一月にカナダのトロントで開かれた。加盟する各国の財務協会がお互いの活動内容や課題を共有する一年に一度の会合だ。IGTAの議長として終始会議をリードしたのはジム・ケイツ氏(米国AFEP)。今回の金融市場混乱の発信源としてのお詫びに始まり、米国トレジャリーの状況説明の後、各国の財務協会が何をしていくべきなのか、そしてIGTAは各国の協会をどう支援すべきか、組織の在り方についての本格的な議論が展開されたほか、公正な格付けを目指すための意見書作成をはじめとした来年度に向けたさまざまなタスクフォースも組織されることになった。



FASSベーシック検定、来期公開!

経理マンに最低限必要とされる基本理論とは一体何か。企業の経理・財務を取り巻く環境が激変しているのに対応し、実務家として知っておくべき基本理論を体系化した検定、経理・財務ベーシック検定(FASSベーシック)が来期二〇〇九年六月よりスタートする。

FASS検定が経理・財務の実務知識を問う検定であるのに対し、FASSベーシック検定は基本理論を問う検定だ。具体的には、国際財務報告基準(IFRS)に準拠した会計の基本である「財務会計」、企業経営の意思決定を支援する管理会計と企業財務の基本を合わせた「経営会計」を基本科目とし、スプレッドシートを活用したシミュレーションで現場ニーズに応えるための「財務モデリング」が応用科目として予定されている。経理・財務に配属されたばかりの若手から中堅まで、幅広い層が対象だ。なお、公式テキストは、各科目別に二〇〇九年三月に発行される予定である。

経理・財務SS2.0対応検定 実証実験スタート

経済産業省策定の「経理・財務サービス・スキルスタンダード」(以下、経理・財務SS)に内部統制の記述を付加した「経理・財務SS2.0」。この新しい体系に準拠した検定試験の開発プロジェクトが開始し、一二月より始まるパイロット・テストに約六〇社の企業が参加している。

経理・財務SSに準拠したFASS検定を拡充させるか、それとも別の試験体系とするのか、パイロット・テストの分析を踏まえて検討していく予定だ。

充実する“FASS検定” 進化する“経理・財務サービス・スキルスタンダード”

経理・財務ベーシック検定™

FASS

B a s i c

こんなことも知らんのか!!
と、部下を叱る前に…。



Test of the "keiri" people
by the "keiri" people
for the "keiri" people

経理マンとしてまず求められるのは、偏った分野の専門性ではなく、企業の現場で要求される実務知識と基本理論を幅広く学習すること。実務知識は“FASS検定”で。そして、基本理論は“FASSベーシック”で!

グローバル経営を支える経理・財務の基本理論 経理・財務ベーシック検定(FASSベーシック)

グローバル時代の経理・財務実スタッフに最低限必要とされる基本理論の習得レベルを測る検定です。

対象 経理・財務実務経験の無い若手社員から、実務経験はあるものの基本理論に不安がある中堅社員まで。

検定科目 科目別の試験です。科目別に、合格の判定に加えて得点・分野別の達成度合いが表示されます。

			問題数	時間	受験料
基本科目	財務会計	IFRSs(国際財務報告基準)に完全準拠!	100問	90分	10,500円
	経営会計	利益を出すための意思決定会計!	100問	90分	10,500円
応用科目	財務モデリング	変数の取扱方法・数式作成の考え方!	50問	60分	10,500円

- 試験問題: 四者択一方式
- 試験は全国にある試験センターでコンピューターでの受験となり、受験申込から試験実施までプロメトリック(株)が運営を行います。
- 2009年6月より毎日受験が可能です。

2009年6月
試験開始
2009年3月
公式テキスト発売

AFP年次総会 参加報告

遠藤裕明

日本CFO協会主任研究委員

谷口 宏

日本CFO協会

一〇月にロサンゼルスにて開催された今年のAFP年次カンファレンスは、昨今の金融市場の混乱にもかかわらず、六、〇〇〇人の参加者を集めた。市場の混乱、特に信用収縮に対し、急遽バーニー・フランクリン氏(下院金融委員会委員長)との公開のディスカッションがビデオリンクで設定されるなど極めてタイムリーなアレンジに驚かされた。全体を通じて、あと二週間程度に迫った大統領選挙について触れられることが多かったほか、急成長が逆回転しているエマージング市場の話題も目立った。多くのセッションが平行して催されるため、興味深いもの全てに参加することができないほど、今年のセッションは充実していた。ここでは主な二つのセッションを紹介する。

マジック・ジョンソン

元NBAバスケットボール・プレーヤー

基調講演は「マジック・ジョンソン」。

現在、不動産開発、スターバックスのフランチャイジー、映画館運営(AMCに売却済)、TGIフライデーのフランチャイジー、他数々のプロジェクトを成功させた他、フィランソロフィスト、コンサルタントと多方面で活躍する。ビジネスを始めた当初、映画好きが高じて映画館の運営に乗り出した(マジック・ジョンソン・シアター)。当時は誰もが反対したが、マイノリティ地域の特徴を捉えて成功した。例えばホットドッグだ。マイノリティの多い地域でホットドッグをたくさん仕入れ、一人あたりの売上単価を上げた。白人が多い地域では、映画館で食べ物あまり売れないというのが当時の固定観念だったのだ。次がスターバックス。現在は多数のフランチャイズ店を運営。利益率はスターバックスの平均を上回るが、これもスコアの代わりにマイノリティ好みのパンケーキを導入し、音楽もテンプテーションズやアース・ウィンド・アン・ファイアーに替えたのが成功の要因だという。

これまでマイノリティを五〇万人採用し、コミュニティを改善してきた。マイクロソフトやHP等のコンピュータ関連企業に働きかけて学校へのラップトップ配置を推進したり、教員の質向上プログラムも後押ししているそう。今までの成功を「コミュニティにきちんと返す」ということ実践している。マイノリティの起業家教育も行っているなどその姿勢は立派だ。ビジネスを始めた当初は一〇行の銀行に融資を断られても、尊敬できるエキスパートに

提案書を見てもらい、くじけずに徹底的に練り上げたという。常に勝ちたい、そのためには努力を惜しまないという情熱をビジネスにもそのまま振り向けて成功してきたジョンソン氏。日曜日には必ず教会に行き、また子どもと映画を見に行ったりと家族との時間も大切にしている。

Dr マルシ・ロツセル

エコノミスト

元CNBCキャスターでもあるエコノミストのロツセル氏。現在の金融危機を、今後の金融システム再構築の契機と捉え、アカウンタブル・キャピタルズ(責任ある資本主義)という考え方を提唱。概要はこうだ。

二〇〇一年にITバブルが崩壊し米国内経済が「軽度」のリセッションに陥った際、金融を緩和しすぎた。銀行は実質マイナス金利で借ることができるようになり、住宅を含む貸し出しを急速に増加させ、証券化商品への投資も積極的に進んでいった。二〇〇七年以降信用収縮が起こり二〇〇八年には金融恐慌といえる状況になった。しかしGDPを見ると第二四半期までプラスだ。経済が弱つていたわけではない。景気が回復するときには力強く回復する可能性もある。もともと、今回の混乱が収束していく過程では、中国やインドといった新興諸国が米国を牽引していくことが期待される。

現状は、金融システムを再構築するよい機会であるが、今後の規制はルール主義ではなく、原理原則主義を導入すべき。空売り規制など個別の事象に一つ一つのルールを作って規制しても、状況の変化や抜け道ができる。本質的な問題が解決しない。今後は原理

原則主義の規制を導入し、金融に携わるものが従うべき規範を設け、当局は監督をしていくべきである。また、金融機関の経営にも長期的な視点を持たせるべき。四半期ごとの業績が問われ、短期的な株価の上昇で報酬が支払われるというのは、経営がより短期指向になり、長期的なビジョンから離れていく。これも金融危機の元凶のひとつであった。

メディアを見るとリセッションが毎日とり上げられ、非常に悲観的に思えるが、実際、過去の平均では、リセッションの期間は八カ月程度で、永遠に続くわけではない。また、株式市場は实体经济が回復するより前に反発する傾向もある。今般の金融危機に入る直前まで経済は強かったことを忘れないでほしい」と希望で締めくくった。

マジック・ジョンソンもそうであるが、非常に厳しい現状を認識しながらも、希望を捨てずに頑張ろうと楽観的な考えを持っている人が多いという印象を受けた。カンファレンスだからというわけではなく、本心からそう信じているその発言に包まれると自ずと勇気が湧いてくる。

締めくくりにレセプションは、元ドゥービー・ブラザーズで活動し、グラミー賞を五回も受賞したという「伝説の」シンガー、マイケル・マクドナルドを招いて開かれた。三日にわたるイベント最後の夜は皆くつろいだ雰囲気を楽しんでいた。

来年はサンフランシスコ。毎回参加して残念に思うのは、海外のこうしたイベントに参加する日本人が少ないことだ。是非、参加してみることをお薦めする。

SUNDAY

Kick off Conference
with keynote speaker
Earvin "Magic" Johnson.
Later, connect with
your colleagues at the
AFP Welcome Reception
at The Getty Center.

